柿生文化

柿生郷土史料館　情報・研究誌
住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1
柿生中学校内
電話:070-1503-6401、044-988-0004
http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo
第 114 号

シリーズ川崎の歴史を知ろう！
「川崎の文化財」-14

麻生区岡上の遺跡　―岡上川井田遺跡―
===川崎市域における旧都筑郡内の遺跡===

川崎市教育委員会事務局文化財課学芸員　栗田　一生

川崎市域における旧都筑郡内の遺跡ということで、これまで紹介をしてきましたが、今回も岡上に所在している遺跡の１つである岡上川井田遺跡についてお話しさせていただこうと思います。

岡上川井田遺跡は、図１のとおり、ここ何回かお話ししてきた岡上廃寺推定地（岡上栗畑遺跡）や岡上丸山遺跡の西側に位置しています。麻生区岡上字川井田に所在することから、「 岡上川井田遺跡」と呼んでいます。本遺跡は、南側の丘陵平坦面から北へと下る斜面地に立地していて、これまで発掘調査が実施されたのは、個人住宅建設事業に先立つ発掘調査として、川崎市教育委員会が 2011（平成23）年5月17日～20日に実施した１回のみですが、地形や土地の利用状況等からも、遺跡がまだまだ地下に残っている可能性が高い遺跡といえます。平成23年の発掘調査では、古墳時代後期と推定される竪穴建物跡1軒と壺や甕等の土器が発見されました。建物跡は、調査地点がもともと北へと下る斜面を削って平場を作っていた場所だったため、その当時の地面からわずか30cm ほど下で発見されました。そのため、遺構の上部は大部分失われており、残っていたのは、確認面から床までの約20cm ほどでした。このように、あまり遺構の残りは良くなかったのですが、床面からは想定以上に土器が発見されました。同じ床面からは炭化した木材が多く発見されたため、おそらく焼失家屋であると考えています。発掘調査の状況からは、今から約 1,400 年ほど前のこの地で、火事が発生し、家の中にあった土器を運びだすことができず、そのまま燃えた家の残骸とともに埋まってしまったため、床に土器がたくさん残っていた可能性が推測できます。岡上川井田遺跡の立地する地形や周辺での調査状況から、調査地点周辺にはまだまだ竪穴建物が眠っていると考えられるので、将来また発掘調査が実施されれば、当時の人々の生活をより想像できる、新たな発見があるかもしれません。

図1　岡上川井田遺跡と岡上の主な遺跡

岡上における遺跡を3ヶ所紹介してきましたが、旧都筑郡内のみならず、川崎市内においても、岡上は遺跡がたくさん現存している地域の１つといえます。今回紹介した岡上川井田遺跡の調査成果については、調査報告書の刊行に向けて作業を進める予定でおりますので、この地域の歴史を解明する一助となるよう、しっかりと調査・研究していきたいと考えております。　（続）

写真1　岡上川井田遺跡で発見された竪穴建物跡

写真2　竈及び床面から発見された土器や炭化材

シリーズ
「麻生の歴史を探る」　第84話

民間信仰５　石造物～子育て地蔵

小島　一也（遺稿）

麻生区古沢の九郎明神社の北面に、「古沢の子育て観音」と呼ぶ小祠があります。そこには、「帰命頂礼その昔、廃寺となるは数あれど、此処に一つは古沢に、山号申せば古沢山、寺号申せば福正寺、安置まします御本殿、今の世までも変わりなく、御堂はなくもいといなく、何時か世に出る時も来る、長き年月絶え間なく、故郷護りたまいけん、利益新たな御仏は、千手観音菩薩にて、子育て守る地蔵尊、釈迦牟尼如来まします、南無阿弥陀仏阿弥陀仏、六字の名号書き残す、身はたとひ廃寺となりて朽つるとも、心残れる古沢の里、南無阿弥陀仏南無阿弥陀、南無阿弥陀仏阿弥陀仏」の詠歌が今も残されています。

古沢の子育て観音

帰命頂礼とは仏に帰依することを言うそうですが、この和讃は古沢のお地蔵様の由来を語ったもので、古くから古沢にあった福正寺（真言宗坂浜高勝寺末）が、明治初年の廃仏令で廃寺となり、残された観音様と地蔵様は愛する古沢の里を去るに忍びず、風雪に晒され、いつか世に出る時節が来る、現在、地元の方によって堂宇が建てられ、地主の古沢サダ子さんによって大切に管理されています。

堂内には右に子育て観音（福正寺本尊でなく近年の作）、左に赤子を抱いた子育て地蔵像（天保の頃か？年代不詳）が安置され、祈願成就の奉納幕や絵馬で飾られ、鄙びた荘厳さを呈しています。

この子育て地蔵由来の和讃が、いつ頃、誰によって作られたのか、地元の古老古沢荘一さんの話では、「福正寺が廃寺になったのは明治五年、その頃古沢の在家は片平修廣寺の檀家になっており、福正寺の本尊聖観音像は高勝寺に戻り、残されたお地蔵様が古沢山（こたくさん）として、布教のため修廣寺の僧によって詠まれた。」とされており、今でも在家農家の間では「頼まれ念仏」と呼ばれ、唱えられているそうです。

前稿岡上川井田の子育て地蔵は、別名「水子地蔵」とも呼び安政二年（1819）建立の銘があります。赤子を亡くした母の悲しみに勝るものはありません。死んだ赤子が「賽の河原」で父母を慕い石を積んでいると、鬼が出てきて壊してしまいます。これを救って下さるのが地蔵菩薩で、この水子地蔵は、現在、三輪高蔵寺の別院下三輪の水子地蔵尊が信仰を集めていますが、岡上の場合、右手に錫杖、左手に宝珠を持つ柔和なお姿の地蔵に、毎年地域のご婦人が、新しい頭巾、新しい袈裟をお着せしているそうです。

お地蔵様の中で一番古いのが子育て地蔵ですが、「あぐり地蔵」と呼ぶお地蔵様が幸区の小倉にあります。これは尻手黒川線道路の尻手の手前、鶴見川の末吉橋の傍らにある、小さなコンクリートのお堂に納められた子育て地蔵のことで、この地方の伝承では、生まれた子の病気や育ちが悪ければ、この地蔵に祈願すれば健やかに成長する、と信仰されています。「あぐり」とは、あがり、あふれる等の言葉の意味があり、「あぐり」の名の多い地方の伝説から、男の子も女の子も、七歳までは「あぐり」の名で呼ぶと願いが叶うとされ、現在この地では、町内会、老人クラブ有志の方が子育ての重要性を考え、地元の正蔵寺（浄土宗）の協力を得て、毎年「あぐり地蔵尊供養祭」を催しているそうです（川崎の民間信仰）。

小倉のあぐり地蔵

町田市の小野路に「三体地蔵」と呼ぶ子育て地蔵があります（町田の歴史をたどる）。小野路と言えばその昔（幕末）柿生村を含め凶作に喘ぐ村が小野路寄場組合を作った所、古くは鎌倉街道上ノ道の中心地でした。このお地蔵様にも古沢に似た和讃があります。「帰命頂礼小野路にて、向坂なる地蔵尊、そこに三体おわします、向かって右にいぼ地蔵、願いによりていぼを取る、中は日限り地蔵尊、日限りの願い聞き賜う、向かって左は子育ての、地蔵尊とぞ申すなり　…（以下略）」（萩生田長吉念仏集）。

向坂の三体地蔵

この三体地蔵を訪ねてみると、新道ができ大山道かとも思われる、木々に覆われた向坂の道の端に、小さなお堂に納められたお地蔵様がありました。聞くと、明治の初め、柿の木から落ちて亡くなった子の両親が、日限り地蔵（天保年間　1832～38）に願いをかけて、地蔵を造立したのが子育て地蔵の始まりと言い、堂内中央に3地蔵、その下に願いがかなったのか、小さな子育て地蔵が左右に2体、計4体奉納され寒椿の花が供えられていました。

参考資料:「川崎の民間信仰」「町田の歴史をたどる」「歩け歩こう麻生の里」

シリーズ
教育の歩み 第１部

学校の誕生と成長（２）

小林 基男（柿生郷土史料館専門委員）

◆スパルタの義務教育◆

ソクラテスがスカラの森で、弟子たちとの対話に勤しんでいたのは、紀元前 5 世紀の末頃のことです。彼の処刑は、前4世紀に入ったばかりの紀元前 399 年の事でした。ソクラテスは、古代ギリシアで最も徹底した民主政治を実現したとされる、アテナイの人です。古代ギリシアは、ポリスと呼ばれる小国家が分立していたことで知られます。そしてこの時代のギリシアの歴史は、実を言うと、アテナイ人の書き残した記録によって、今日に伝えられているのです。ペルシア戦争やペロポネソス戦争（ギリシア世界の2強であったアテナイとスパルタが、雌雄を決しようと争った戦争）の歴史についても、アテナイ人の書き残した記録しか、残されていないのです。

密集した重装歩兵の隊列を描いた壺絵

皆さんも、スパルタ教育という言葉をご存知だと思います。この語は、ギリシア世界で最強の軍事国家とされるスパルタの教育の在り方から、生まれた比喩なのです。そうなんです。スパルタでは、ソクラテスの青空教室よりも 100 年以上も前、紀元前 6 世紀の初めには、スパルタ市民の子ども達に対する義務教育を始めていたのです。　これがおそらく世界最古の義務教育であり、世界で最初の学校はスパルタで誕生したのです。しかし、スパルタでは文字の使用は禁じられており、市民は文字を使っておりません。ではいったいスパルタの子どもたちは、学校で何を学んでいたのでしょう。

謎解きをする前に、ここで簡単にスパルタと言うポリスの社会構成を記させていただきます。スパルタは少数の市民と自由人ではあっても参政権を持たないペリオイコイと呼ばれる小土地所有農民や手工業者、それに被征服民で奴隷身分のヘロットによって、構成されるポリスでした。人的には奴隷身分のヘロットが多数でしたから、数を頼んでヘロットが反乱を起こすと厄介です。そのため市民たちは、常にヘロットの反乱に備えて、市民団の団結を堅く守り、常に軍事訓練を施して、軍事力を磨き続けていたのです。スパルタについては、話せば面白い話がまだまだあるのですが、今必要なのは、この反乱への備えと軍事訓練なのです。紀元前 6 世紀は、鉄器の普及に伴い、重装歩兵の密集戦法がおそらくスパルタで考案され、諸ポリスに広まった時期でした。この密集戦では、密集を構成する兵士全員が一糸乱れず同一の行動をとる必要がありますから、集団での訓練が何よりも重要でした。そこでスパルタでは、子どものうちから訓練しようということになったのです。スパルタの義務教育はこうして生まれました。ようするに軍事訓練のためだったのです。

こうしてスパルタでは、男の子は 7 歳になると、母親の手を離れて全寮制の幼年学校に入り、そこで年齢別の集団生活をさせる決まりが出来ました。女の子も7歳から学校へ通うのですが、女の子には寄宿舎生活は科されなかったのです。そこでいったいどんな教育が行われたのでしょうか。音楽と舞踊を除くと、文芸や知育は徹底的に無視されました。「スパルタ市民に文字はいらない。文字は人間を軟弱にする。」こう考えられていたのです。そのため今日に至るも、スパルタ人が記録した文字史料は、一つとして発見されていないのです。

当然学校では、毎日体育と訓練を繰り返し、時に音楽と舞踊の授業が行われたのです。女の子はどうかというと、こちらも同じでした。女性が戦闘に加わることはないのですが、将来丈夫な戦士を産むために、身体を鍛えておくことが求められたのです。学校は男女別でしたが、男子も女子も共に体育中心の授業を受けていたのです。そこでは良き兵士の育成、丈夫な子を産める母体の育成が目的でしたから、訓練についてこられない落伍者は、不要な存在でした。こうして厳しい訓練の落伍者は、市民の身分を剥奪され、捨てられるのが常だったのです。スパルタ教育の語源はここにあったのです。

オリンピア遺跡の一部　ゼウスの神殿跡

こうした訓練を受けたスパルタの若者は、4年に一度行われる聖地オリンピアでの競技の花形でした。競技には戦車競技など軍事訓練の延長のような競技種目が多かったので、スパルタの若者たちから多数の優勝者が出るのは、当然の帰結でもあったのです。スパルタには確かに義務教育が存在しました。しかしそれは、知育を無視した軍事と体育の訓練校でしたから、ここではその存在を指摘するに留め、いわゆる学校とは区別させていただきます。

続く

川崎市立日本民家園に移された麻生の歴史４
旧早野村の庚申塔

庚申信仰については、第101号の『麻生の歴史を探る』で紹介されていますが、民家園には旧柿生村から2基の庚申塔が移されています。いずれも旧早野村に置かれていた享和二年（1802）造立の庚申塔で、一つは通常一般的によく見られる青面金剛と三猿の組み合わせ（写真1）、もう一つは道標を兼ねたものです（写真2）。

青面金剛法は伝尸病（＝結核）の予防・治療など病魔を退散させる威力がある仏教の秘法とされるそうですが、そこで伝尸と三尸との関連から伝尸の病原を除く青面金剛に、三尸の駆除を祈願するようになったといわれます。また三猿は三尸の虫に対して余計な見聞き伝言をしてくれるな、と言っているわけですね。もう一つ余談、「三尸の虫」は、猿が大嫌いだったとか。猿が仲間と毛づくろいをしている姿は、まるで「三尸の虫」を体内から取って食べているような格好に見えたのでしょう。

一方、道標を兼ねたほうには、やはりその嫌いな毛づくろい猿らしき彫刻があります。「庚申塔」の文字を直接刻み、さらに背面を除く三面に行先の地名（南神奈川、東　江戸登戸、西　大山長津田）が刻まれています。川崎市石造物調査報告書によると、この道標を兼ねる庚申塔は市内に8基しか無いそうです。

（有泉　眞男）

（写真1）庚申塔

（写真2）道標を兼ねた庚申塔

柿生郷土史料館催物案内　【入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日　（原則として月4回）

11月　5・12・19・26日（毎日曜日）　**12月**　2・9・16日（毎土曜日）

◎開館時間:午前10時～午後3時　（12月23日は休館です）

第70回 カルチャーセミナー　シンポジウム
故小島一也氏著『麻生の歴史を探る』を読んで

柿生文化に連載中の『麻生の歴史を探る』が、未掲載の遺稿を含めてご家族の手で、先生の遺著として出版されました。そこで昨年3月の「偲ぶ会」に続いて、この遺著を中心に、再度小島先生を、そして小島先生の業績を振り返ってみたいと思います。

コーディネーター：小林基男氏　（柿生郷土史料館専門委員）

パネラー：（未定）

日時：11月12日（日）午後２時～４時　会場：柿生中学校　視聴覚室

第71回 カルチャーセミナー
天皇の諡（おくり名）から古代史の背景を探る

天皇の諡を参考に、古代の王朝交代説や倭の五王はどの天皇なのかなど、古代史の謎とされている事柄をご一緒に考えてみませんか。

講師：岡田誠治氏　（麻生歴史の会副委員長）

日時：１２月９日（土）午後１時30分～３時30分

会場：柿生郷土史料館特別展示室